



平成 27 年 10 月 24 日の東京湾再生官民連携フォーラム 第 3 回通常総会における

來生議長 あいさつ

準備段階から第 1 回の設立の総会に至るまでを思い出しますと、やはり官といってもさまざまな立場の官があり、民といっても企業あり NPO あり個人参加あり、さまざまな立場の民がありということで、当初は本当に異なる立場で東京湾をよくしようという思いは 1 つではありましたが、それをどうやって全体の活動にしていったらいいかという議論をすると、それぞれの論理と、自分とは異なる主体の論理というもののかみ合わせというのがなかなかうまくできずに、ホットな議論というのも非常に多く行われるような状態でありました。そういう状態から、やはりこの 3 年の継続的な活動というのは、非常に時間というのは大きな意味を持っていると改めて感じるわけですが、最近ではみずからの論理と相手の異なる論理というのを、それぞれの主体がうまく組み合わせて、非常に効果のある活動ができています。その成果が政策提言という形になって実を結んでおりますし、それから、毎年度 1 回ずつやっている、きょうのこの下でいろいろ準備が進んでおります大感謝祭というのも、年々非常に規模も大きくなり、盛んになっているということに表れていると思います。そういう中で 3 年目を迎えて、ある意味で今までの活動が第 1 段階ロケットであったとしたら、きょうからの活動というのは第 2 弾ロケットで、うまく離陸できたことを前提に、いかに加速をしていくかということではないかというふうに考えます。そういう中で、本年度の夏に事務局主導で企業と NPO の活動をうまくマッチングさせるという趣旨で、未来交流会というような企画もさせていただいております。第 2 段階、第 2 弾ロケットの大きな課題は、今まで官対民という論理をいかに組み合わせるかということだったと思いますけれども、そこからさらに 1 歩進んで、民の中でやはり永続的な経済力を発揮できる企業と、それから、企業以外の NPO というようなもののかみ合わせというのがどのようにしたらうまくできるか。企業もコーポレート・ソーシャル・レスポンスビリティというある意味での標語のもとで、いろいろこういう活動にご理解をいただいて、積極的にご支持をいただいておりますけれども、コーポレート・ソーシャル・レスポンスビリティというのは、ある意味では社会のために頑張って貢献をするというような肩ひじを張らずに、企業のある意味で自然の論理の中でこういう環境の改善という社会的に意義のある活動にどのようにうまく参加をしていただけるような知恵、工夫ができるかというのが、まさに官と民、民といってもさまざまな民が一体になっているという組織体の、しかも、自由な議論と自由な活動をするという、こういう組織体の大きな責務ではないかというふうに考えております。うまく離陸できたことを前提に、いかに加速をしていくかが官民連携フォーラムのこれからの数年間の大きな課題になるというふうに考えておまして、そのためにまさにいろいろな立場の方が自由に参加をして、それぞれの手弁当でいろいろな活動をしていくというこの組織がますます社会的に大きな力が発揮できるように皆様をお願いをして、私からのあいさつにしたいと思います。

以上

(本議長挨拶は、平成 27 年 10 月 24 日(土)第 3 回通常総会フォーラム議長挨拶を事務局がまとめたものです。)